

北の火ぶり

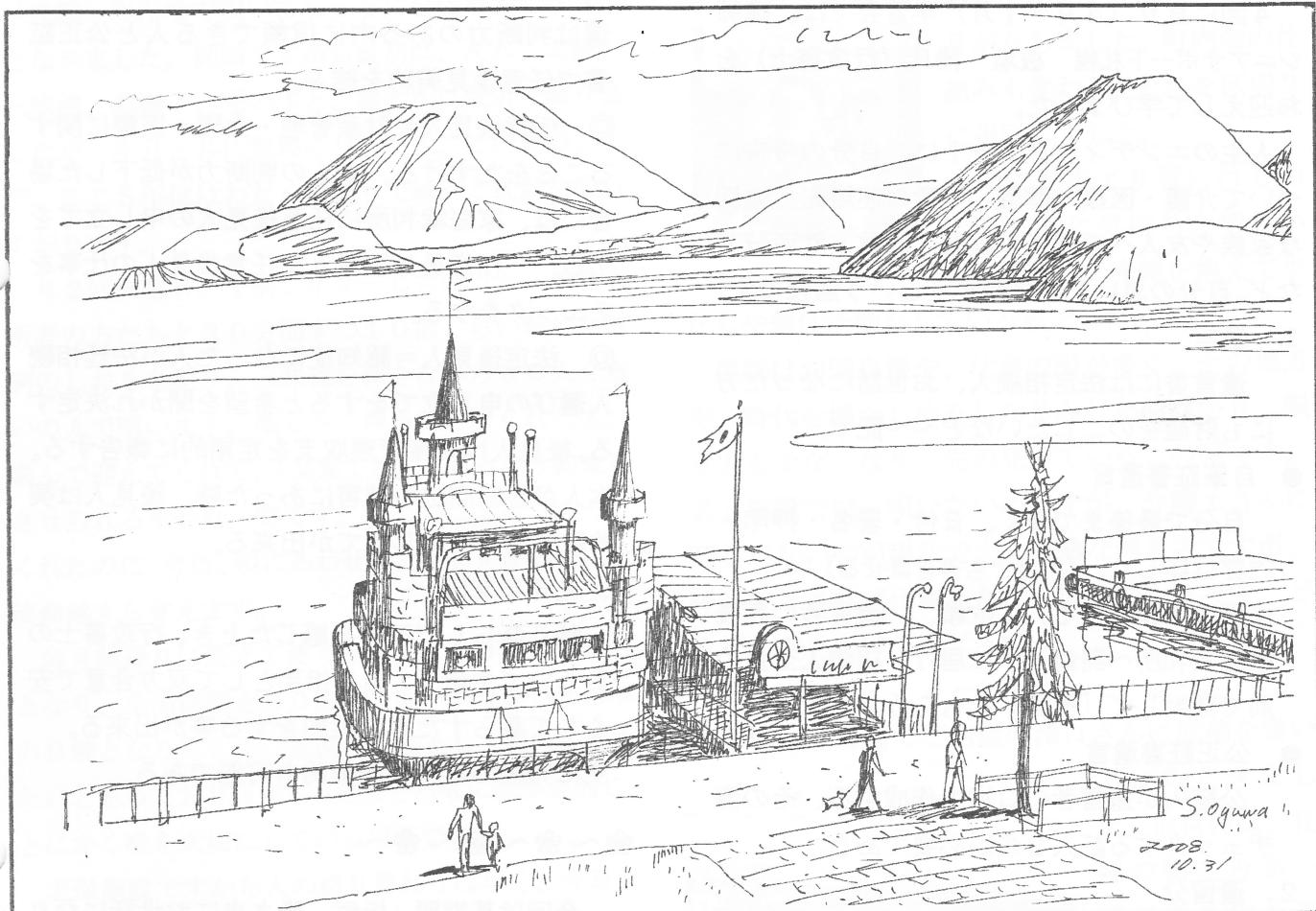
第 42 号

健康生きがいづくり
アドバイザー
北海道協議会

発行責任者

堀田幸男

題字 会員 塚本久二子（札幌市）



《洞爺湖》 小川智（公募白日会会友）

健康・いきがい

『徒歩2分にはエゾリスの森』

水沢 裕一

北見といえばハッカが有名（戦前は、世界の7割を生産）だが、他にも①玉ネギ（生産日本一）②焼肉店（普及率日本一）③日照率（端野町は日本一）④面積（大合併で北海道一）などがある。

北見駅から東へ1.5kmには12haの広大な野付牛公園がある。自宅すぐのここを起点とし

て北見駅までの探索1時間はすっかり気に入った散歩コース。厳冬期、雪の中でたくましく生きるエゾリス（冬眠しない）たちに大感動、いくつもシャッターを押した。

5月は28名のパートさんたちと、6月には全国から集まっている学生バイト15名と～炭を囲み大バーベキューをした。昼間の交流はまた格別だ。

釣り、登山、貝採り～単身赴任生活をこれまでとは違う自然環境でエンジョイしています。

オホーツク最高！！

輝いて暮らしたい・あなたに！

学習会・出前講座

札幌市 長澤幸子

誰もが安心して暮らせる老後を過ごすためには日頃、どの様な心得が必要なのでしょうか、

4回に亘り（4月～7月）学習会では、講師シニアサポート札幌 板垣 隆氏（行政書士）をお迎えして学びました。

人生のエンディングノートに、自分の将来について介護・医療・葬儀・不意の連絡先・大切な家族や友人への御礼の言葉・遺言・財産分与など、自分の思いを書き残そうという勉強です。

1. 遺言

遺言書には法定相続人、お世話になった方にも財産をのこしたいなど～～記す。

● 自筆証書遺言

自分で最後まで書く、日付・署名・押印・内容は詳しく、（何度も書き直せる）保管は信頼できる人に依頼、遺言者の死後家庭裁判所へ開封せずに届け、相続人全員の前で開封して「検認」をもらう。

● 公正証書遺言

公証人が遺言者の口述で作成する、その際チェックする証人2名が必要である。

2. 遺留分

主人が「全財産をある団体に寄付する」と書きのこしても、残された家族の遺留分は法定相続分として取り分の主張を認めている。

3. 相続税・贈与税

お世話になった人に贈与する場合、贈与税のかからない範囲は毎年110万円まで、子供に相続時精算課税制度、親65歳以上、子20歳以上で2500万円・住宅購入資金3500万円、親が亡き後、総額相続と定め相続税が計算される。

4. 相続放棄

遺言者死亡後、資産と負債を調べ負債が多ければ、死後3ヶ月以内に家庭裁判所に相続放棄

の申請をする。

5. 財産管理等委任契約

身体が不自由、独り暮らしが不安になった時は財産管理等委任契約と同時に任意後見契約を結ぶ、判断力が低下したら財産管理等委任契約から任意後見制度にスタートする。

6. 成年後見制度

任意後見・法定後見がある。任意後見の人選は判断力のある内に信頼できる人と公正証書で任意後見契約を結ぶ。

◎ 任意後見人＝財産管理・介護・医療に関する事をたすける。本人の判断力が低下した場合には、家庭裁判所に任意後見人の申し立てをする。・・・任意後見監督人が任意後見人の仕事をチェックをする。

◎ 法定後見人＝認知症になった人が法廷相続人選びの申し立てをすると希望を聞かれ決定する。後見人は財産管理収支を定期的に報告する。本人が悪徳商法の被害にあった時、後見人は契約取り消しの申し立てが出来る。

7. 見守り支援

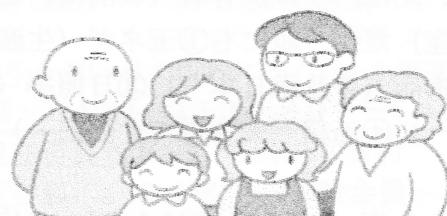
独り暮らしで不安を感じたとき、行政書士の計らいで生活面・話し相手として双方合意で安心して暮らすための契約をする事が出来る。

更に死後の事務委託契約も可能である。

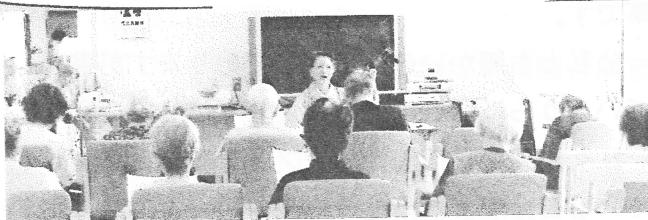
✿～✿～✿～✿～

今回は長期間、板垣 隆さまにお世話になり多くのことを学ばせて頂きました。参加者が少ない時もあり、板垣様には担当者として申し訳ない思いもありましたが、学んだことはシニアライフの今後に力強い味方を得たような気が致します。

参加された皆様 有難う御座いました。



地域に生きる



我家に対峙する、三角山の裾に 恵裕会 宮の森病院、老人保健施設「円」があります。そこで、

「民謡 みんなで唄いましょう」を始めてもう9年となりました。民謡ですから最初は、尺八、太鼓、三味線、お囃子、唄い手と、賑やかに数名で参りましたが、年月と共に無理になった人、その他のことでは、ここ5年位はわたくし独りで細々と民謡を唄つております。

月2回火曜日、午前デイサービスの方々、午後入所者の方たちと30分間ずつ10曲ぐらい載せた歌詞のしおりを配り、三味線を弾きながら30人ぐらいの人で唄います。楽しみに待っていてくれた人、喜んで迎えてくれて、「又来てね」としっかり約束をさせられる幸せな一時です。かつては大声で歌ってくれたのに、今は、唄にあわせてただ首をふる姿に、使命感すら覚えます。

毎月順繰りに変えて使う歌詞のしおりも、8冊目となり、全国民謡を90曲を、即、唄う皆さんは私の自慢となりました。生涯の仕事として続けて生きたいと思っておりますが、そろそろ喉に限界を感じ、とにかく喉を大切にしている現在です。

老保施設ですから人の移り替わりは早く、今日一緒に唄った方と次回お会いできるとは限りません。30分と決められていますが、時計を見るのを嫌がります。「今を楽しんでいたい」その気持ちは私も同じで、介護士さんからストップが掛かるまでとなります。

唄の題名・地名は、必ず伝えてから、父母の里、兄弟が居るとか、その地方に思い入れがある方の顔を見ながら唄う。お得意の唄のときはその人と目を合わせて一緒に唄う。ささやかなサービスを心掛けて何年もかけて出来た「つながり」ですが、普段より簡単に切れる淋しい縁もあります。

昭和29年北海道ドレメに在学中、私と友人2名

札幌市 澤口 成子

赤十字青年奉仕団に参加するよう学校から言われて入団。北大と藤女子大、札医大とドレメがペアになって奉仕活動をしました。その年は札幌円山で国体もあり、よく理解もせぬまま、活動を楽しんでおりましたが、これが青少年奉仕団の草分けではないかと今思っています。長じて赤十字奉仕団円山分団員となり、その間、空間もありますが50年の歳月がたちました。町内会の仕組みも変わり、それを区切りに退団しました。



平成元年より習いはじめた三味線に気持ちを切りかえました。気がつきましたら、三味線を抱えてまたもや奉仕活動をしている私でした。

民謡はお国自慢や、仕事の唄が多く、その地方や、時代を懐かしめるしみじみした曲ばかり、唄う人も少なくなり、先の見えているこの頃です。老人施設では、唄いたいのですが、介護士さんに関心がないのが現状です。未熟な弾き手ですが、呼んで下されば出来るだけ出向くつもりです。どうぞお声をかけてください。

·····
今日は、各所でご活躍の澤口さんに原稿を書いていただきました。取材係は、札幌の街並みが一望できる宮の森の緑清々しい施設にお伺いして、写真撮り。あとは一緒に手拍子をたたき、民謡を楽しく唄ってただけでした。

お話を伺いながら感じたことは、「奉仕の精神」を人生に自然体で受け入れていらっしゃることでした。肩肘張らずご自分のできることを精一杯。『生活の一部なのよ』と生き生きとおっしゃいました。「ボランティア」というより「奉仕団」という日本的な言葉の響きが、和服をきりりと着こなした澤口さんにぴったりでした。かっこいい！

(取材 荒井 円・川村貞子)

♪❖❖❖♪❖❖❖♪❖❖

近況報告『私は今』

♪❖❖❖♪❖❖❖♪❖❖

札幌 石田 義勝

平成10年11月10日に認定された石川です、当時会社の通信教育で平成9年から1年間学び埼玉のKDDI研修所へ行き取得しました。健生北海道協議会の事業活動取組には残念ながら多くは活動していない状況ですが本当は無理(?)してでも、と考えてはいるんですが!!!昔のパワーが懐かしい。

認定期から11年間でほぼ毎年定期総会、クリスマス会、新年会懇親会など…1年間ほんの数えるくらいですかね

これからは先ず自己啓発で自身の存在を周知してから共感を、刺激を得る啓発活動をしたいなあ~と思っていますよ。

「私は今」勤務していた会社で平成14年からOB会の広報理事を担当しております、全国の支部は、7支部で全国会員数は4,200名です。北海道支部は214名ですが「OB会」の年間行事などは理事会月2回、定例総会1回、サマーパーティ、日帰り旅行、忘年会、新年交礼会、地区懇親会1回、パークゴルフ2回、ゴルフ2回等などです。私は広報担当として毎月1回広報誌を発行(自分のパソコンで作成)、又行事の写真撮影をして各自に写真配布やその写真を広報誌に組込みナドナドです…その広報誌は214枚コピーし発送作業にて各会員に郵送しております。

新年交礼会では家守さんとお仲間達には大変お世話になっておりまして有り難うございました。

4月から10月までにOB会有志仲間で平日のゴルフ月2回、日曜日1回、土曜日1回などもOB会関連で有ります。

他には定例的に毎年有りますのは高校の札幌地区同窓会、卒業札幌地区同期会、同期会ゴルフ&パークゴルフ各2回…中々出席できな

いのが小樽JCシニアクラブの年間4~5回の行事です。

公私とも細かいのがまだまだあります書いているうちに会社にいる時よりも忙しい???

日々充実を目指し忙しいフリをして自己満している自分ですがそもそも生きがいとは特に定年退職後の生きがいとは…帰属意識、人間関係の希薄、情報の疎遠、肩書き、習慣などなど今迄のものが変化、喪失され目的、目標が判らなくなつた時にライフスタイルを変え、生活観を変え、人生観を変えてこそ得られるかなあ～～～でも奥は深いですね。

あらためて感心するのは「健康生きがいづくりアドバイザー」の皆さんの支援活動には素晴らしい一言です。

最後に私も皆さんの仲間入りし、その支援活動に近づける様に自己能力発見、自己意識啓発を磨きたいと思っていますのでよろしくお願ひ致しますね (楽しみながらですよ)



忘年会で健生玉すだれ同好会の皆さん大好評!

♪❖❖❖♪❖❖❖♪❖❖

近況報告『その2』

❖❖❖♪❖❖❖♪❖❖

札幌 宮本 正敏

私は現在、札幌生涯学習インストラクターの会に所属しています。その会では出張講座(学校、研修会、各種団体の市民対象)への講師等を行っています。私はこれまで、

テーマとしては、

- ①→生涯学習における生きがいと社会参加。
 - ②→健康と生きがいの創造。
 - ③→貴方(親)の愛が届いていますか?
 - ④→トリム運動と生活のスポーツ化。
- などについて

地域(場所)については、

- ① 白石区民センター
- ② かっこう幼稚園・わかば幼稚園合同家庭教育学級
- ③ 大平百合が原大学講座
- ④ レッツ水曜会(琴似の学習団体)
- ⑤ すこやか俱乐部学習会
(特養老人ホームみどりの丘)

といったところなどでお話をしました。

平成21年度は北区高齢者教室(北親大学)などでお話をする予定です。

このように学習したこと社会に生かすことは、生涯学習者としての、私の生きがいの一つです。お話をすることにより、課題を発見し、また自分も学習いたします。そしてまたお話をしても生きがいを創造いたします。このような繰返しが楽しいのです。

私は健康維持のためトリム運動(例：歩く・走る・ジョギング・水泳・サイクリング等)を続けてきました。トリム運動は心と身体のバランス回復運動であり、健康な社会づくりのための文化復興運動であると私は考えています。

したがってトリム運動は健康生きがいづくりアドバイザーの役割と共通する点があると考えています。

私はこれからも学習したことを社会に生かすため、体力、気力の続く限り学習ボランティアを続けたく願っています。

平成21年6月27日 記

◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆

【聴き書き隊いい友】サークル紹介

◆◆◆ ◆◆◆ ◆◆◆

札幌 平野 雄士

この冬傾聴ボランティアグループの役職を離れたことから、聴き書きボランティア養成講座を受講することにしました。

受講者仲間と聴き書きから編集、校正、印刷、製本(糸綴じ、裁断)まで一通り経験でき本が

出来るまでの様々な過程や苦労を体験する事ができ達成感を味わうことが出来ました。

修了式で私達が最初の受講生であり、これからサークルとして活動してほしいと言われ、参加者が一人づつ感想を述べる段になって、この活動の社会的意義を感じたことを私が述べたことから、取材に来ていた新聞社の記者からインタビューを受け、それがまた掲載されるといった悲運(?)が重なり、サークル立ち上げの首謀者に指名された原因ではなかつたかと、今更ながら「口は災い(?)の元」という先祖の戒めを疎かにしたことを後悔しているところです。

発足した「聴き書き隊いい友」は、誰からも注目されたり脚光を浴びることなく、ごく普通の人生を歩んであの世に旅立つて行く市井(しせい)の人の人生にも、その方が輝いた時があり、そこにスポットライトを当てて記録し、自分史として残してあげるという社会的に大変有意義な活動ではないかと思います。

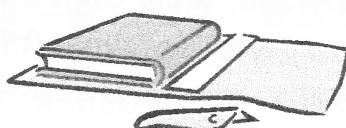
特に講座で聴き書きした方の中に戦争体験を中心に話された方がいて、今後戦争体験者が高齢化し少なくなって行く中で、平和と不戦の日本を維持して行くためにも、過酷で悲惨な戦争体験者の聴き書きは急がなくてはいけません。

そのためにも聴き書きボランティアは全道で1000人くらい必要ではないかと思います

それがフル回転しても間に合わないかも知れません。

早急に体制を整えて活動を始めたいと思いますが、発足したばかりの聴き書き隊ですので、ぜひ先輩皆様のお知恵とご支援をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

聴き書き隊いい友 代表 平野 雄士



あずましい会の花見交流会に出席して 札幌市 木野敏子

北海道。札幌。薄野を愛し、その魅力づくり活性化を目指す!市民活動団体「あずましい会」の恒例になっているお花見交流会が、今年で第八回目として5月8日に行われました。

好天に恵まれ会場の多賀殿には沢山の来場者で、合言葉になっている「嬉しい楽しい」がそのまままでの、大賑わいの楽しい宴席でした。

盛りだくさんの芸達者に交わり 健生からも玉すだれチームとフラチームが参加し、家守さん率いる南京玉簾の妙技に会場の皆様も“は～さてさて・・・さても南京玉簾～♪”と盛り上がり拍手喝采、一週間前に開花したという多賀殿前の桜には、当然敵いませんが、フラの私達も舞台を飾る「サクラ」になって楽しんで来ました。

健康生きがい玉すだれ同好会

札幌市 水野 由恵

同好会は千葉の川上先生(健生アドバイザー)に手ほどきを受け、はや6年が過ぎました。現在の会員は22名、昨年訪問した施設、行事は27回延べ140名が活動しました。

「あさあてー、あさあてー」の掛け声で始まる伝統芸だけではなく、玉すだれを用いた「花笠音頭」「ソーラン節」等自分達で振り付けを考え、進化しています。玉すだれの良い所は、手拍子や掛け声で観客と一緒になれることでしょう。

最近可愛い小学生の女の子二人が練習を始めました。70代から10代まで年齢を問わず楽しめるのも良さでしょう。7、8月は夏祭りシーズン、あちらこちらから出演のお声が掛かっています

黒松内町「うたの集い」に参加して (ブナの北限の里) 札幌市 清水利章

♪と～きめく心にたかく～♪

7月18日18時半より黒松内町で開催された「うたの集い」、「南出薰&コールブリランテと歌を楽しみましょう!」に参加しました。

札幌から家守朋恵・三宅洋一・澤口成子・大西信子、木村光子の皆さん、函館からは秤谷愛子さん、健生の方たちのほか総勢20名の混声合唱団コールブリランテの団員は、雨の中おおよそ3時間をかけ

俱知安町十字街で、高速ニセコ号から迎えの町営バスに乗り継ぎ美しい森林に囲まれた宿泊先である北限のブナの里「歌才自然の家」に到着しました。

木村光子さんのご主人の木村方一氏(教育大学名誉教授)の生まれ故郷ということで、このツアーガ実現しました。「うたの集い」の会場は、黒松内町総合町民センターで行われ、若美町長、佐々木生涯学習センター長よりご挨拶がありました。

いよいよ、新藏由香里さんのピアノ伴奏によってソプラノ歌手南出薰さんの独唱です「私のいとしいお父さん」、「夕鶴」「私の大事な与ひよう」アヴェ・マリア」「ときめく心に」をふくよかで嫋々たる歌声に、町長は魂をゆさぶられたようです。

新藏由香里さんのピアノ独奏では「トロイメライ」、「アラベスク第一番」「ノックターン嬰ハ短調・子犬のワルツ」を華麗に演奏し聴衆を魅了しました。

続いてコールブリランテの合唱となり「大地賛頌」「アベエ・ベルム・コルプス」、「涙そうそう」、「お祭りマンボ」そして、黒松内町のコーラスグループ「ひまわりコーラス」と一緒に「青春時代」、「見上げてごらん夜の星を」、「ふるさと」を歌いました。

翌日は、13名の団員が緑ヶ丘老人ホームを芸能訪問し、「遠山の金さん」を演じました。そこへ黒松内町役場にお勤めの方とご結婚して1児の母となった女医さんのスギピーこと伊東幸枝(旧姓杉山)さんが訪ねて来て皆さんと交流を深めました。

私は、「ブナセンター」の明石嬢さんの案内で木村方一氏が発掘したクジラの化石やブナの木の説明を受けて自然の家に戻り「イカ墨ラーメン」を頂いているとスギピーが訪ねて来て、一緒にさっぽろラジオのパーソナリティをしていた頃の話をしている内に、ふと、深川市で行われた高齢者パフォーマンスライブ「浪漫劇場」に出演した時のことを思い出しました。エンディングで次のように述べられました。

「私は突然この年になったわけではありません。誰もが、それぞれが、それぞれの年を精一杯積み重ね、人生を重ねてきました。一歩一步前を向いて歴史を進めてまいりました。私たちは、これからも、未来のために、誰かのために、そして、何かのために生き続けていきます。命の灯(ともしび)を輝かせながら」。私の気持ちは、今も全く変わっていない。

役員会・運営委員会だより 第2回（7月9日Lプラザ）議題「研修会・事業」ほか

1. 研修会「認知症とともに生きる」について

・「認知症サポーター講座＆ボケないための脳ストレッチ」。日時は8月2日（日）13時～16時。かかる2・7で開催する。参加者募集のチラシを配布。7月14日現在20名の申込みあり。

2. 「ふれあい傾聴ボランティア講座」について

- ・北海道ろうきん社会貢献助成制度事業として、申請していた「ふれあい傾聴ボランティア講座」が採択され事業として開催することが決定した。（下記案内と同封の案内チラシ参照のこと）
- ・一回目8月23日（日）と2回目29日（土）は道立市民活動促進センターで、3回目9月5日（土）・4回目13日（日）は札幌市産業振興センターにて開催。時間はそれぞれ10時～16時で行う。
- ・8月29日の午後の講座「生きがい人生を聞こう！聴き取り演習」で生きがい人生を語る人を探る。健生仲間より候補者を挙げた。

(案) 木野敏子さん、矢崎悦子さん、塚本久仁子さん
長谷川竹二郎さん、岡部二郎さん 梶恭典さん
・川辺よみさんに健康体操を依頼。
・役割分担：受付＝北山・佐藤、会計＝富川
進行＝斎藤、会場案内は役員・運営委員で協力。

3. 「Lプラザまつり」について

・日時は9月12日（土）11時～16時
4F 研修室にて展示などを予定
2F の会議コーナーでカフェ（りんご・にんじんジュース販売など）の依頼あり。
三宅さんを中心に具体化していく

4. 地域別名簿の作成について

・健生北海道の会員の交流を深めることを目的として、各区ごとに連絡を取るリーダー・サブリーダーを決定させた。

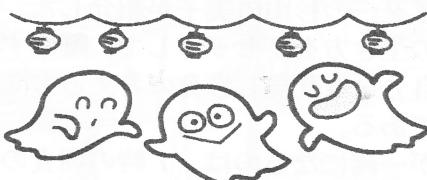
手稲区＝木野さん 東・北区＝嘉指さん
西区＝堀田さん 中央区＝渡邊さん
豊平区＝上野さん、佐藤よし子さん（サブ）
南区＝相坂さん 栗林さん（サブ）清田・白石・厚別＝西田さん 北山さん・三宅さん（サブ）

5. 川下公園サマーフェスティバルについて

・白石区社会福祉協議会より依頼があり、7月25日（土）・26日（日）白石区の川下公園祭にて公演を行う。玉すだれ（家守さん）、マジック（樋口さん）に依頼済み。

6. その他

- ・「健康生きがいづくりアドバイザー養成講座」については、開催に向けて今後検討する。
- ・「健生クリスマス会」（例年の新年交流会として）12月5日（土）サンプラザにて開催予定
- ・「新春 健康生きがいの夕べ」（昨年度クリスマス会の振替として）平成22年1月15日（金）時計台ホールにて開催予定。



みれあい

北海道ろうきん社会貢献助成制度事業

傾聴ボランティア講座

生きがい史づくりのための傾聴と書き書き

昨年度開催した「ふれあい聴き書きボランティア講座」の傾聴の内容をボリュームアップして書き書き講座を企画しました。

傾聴～文章・編集講座～手作り製本による生きがい史づくりを今回は北海道労働金庫の社会貢献助成金事業として行います。

会員のみなさまには会員割引料金で参加していただけます。ぜひこの機会にどうぞ！

8/23(日): オリエンテーション「講座の目的」
講座「心をつなぐ傾聴～傾聴の基本1」
講座「心を開く傾聴～回想法を学ぶ」

8/29(土): 講座「心をつなぐ傾聴～傾聴の基本2」
講座「生きがい人生を聞こう！聴き取り演習」

9/5(土): 講座「今感じることに耳を傾けて～心理療法フォーカシングに学ぶ傾聴」

9/13(日): 講座「書き書きのための文章講座」
講座「書き書きのための編集講座」
書き書き実践にむけたミーティング
講座「書き書き体験より～出会いから本づくりまで」

★会場: 8/23・29 北海道立市民活動促進センター（北3西7）
9/5・13 札幌市産業振興センター（東札幌）

★参加料: 一般 5,000円 健生会員 4,000円
学生 2,000円（全日分）

★問い合わせ: 携帯090-3898-4696（実行委・斎藤）

財団からのお知らせ

(財) 健生・生きがい開発財団 藤村 宣之

▼6月10日に財団のホームページをリニューアルしました。これまでアドバイザーの方にボランティアで作成してもらっていましたが、HP制作会社に委託し、全面的に刷新しました。

情報の充実化に向け、北海道からの情報提供もぜひお願いします。

▼6月15日、財団の理事長に東京大学高齢社会総合研究機構教授の辻 哲夫氏が就任しました。

辻氏は厚生省において老人福祉課長の頃から財団の設立に関わり、養成講座ではアドバイザーについて熱く語られ、まさに健康生きがいづくりアドバイザーの生みの親ともいえる方なのです。

「ハイ、タッチ」

この欄は、リレー式に書きつなぎ、新しい発見や感動を得たいと設けました。内容は自由です。

書き手を依頼された方は快くタッチを受け、多くの方が登場することを願っています。(500字)

只今、卒婚中(危険な関係) 札幌市 堀田幸男

熟年夫婦のライフスタイルとして「卒婚」を5年前、ライターの杉山由美子が紹介した。

今までの生き方をリセットして、離婚するのではなく、自分を取り戻し自身の考える方向へ進んでいくのである。

我夫婦が一緒にになるのは、7時の朝食の時だけが多い。家人は手早く掃除を済ませ「友達に逢つてからボランティアだから」「昼食は?」「勝手に食べておいて」と、いとも簡単に家を出て行った。

「待ってました」とばかり、洗濯を済ませパソコンに向かいメールのチェックやブログ制作に取り掛かる。午後は、菜園の手入れと忙しい。夕食の支度を終え、焼ハイ片手にテレビを見て眠くなった頃に家人は帰宅する。後は、別々の部屋で自由を満喫して「別寝」となる。

二人が家庭内で別行動を始めて10余年、一応「お互いの過ごし方に、口をはさまない」との不文律はあるものの、場合によっては一触即発の危険な関係でもある。ただ、「今しかない」と言い聞かせて楽しんでいる。

すぐに来る「老老介護」「老認介護」へとなる直前に「卒婚」を終えて「続婚」と相手を惚れ直して感謝の念を持ち続け、穏やかな終わりを迎えるものである。

次号は○○さんが登場します。

表紙に寄せて

『洞爺湖』

小川 智

洞爺湖の宿泊施設に勤務していたことがあり、サミットが終わった10月に妻と出かけてみました。

先の大噴火の様子はTVなどで知ってはいましたが、河口付近を実際に歩いてみて、その変わりように驚きました。

私が勤務していた施設は火口に近かったので取り壊されて更地になり、ここが厨房、ここが浴場、私が寝起きしていた居住部分はここら辺と当たりをつけて歩いてみて感慨深いものがありました。

毎日のように手入れに追われていた庭園も雑草が生い茂る原野に戻りつつありました。自然の大きな力には抗しようもありませんが、人の営みのちっぽけさを思い知らされる気がしました。

表紙絵は湖畔亭の部屋から遊覧船エスポールを入れて、中島、羊蹄山を画いたものです。

以前と少しも変わらない穏やかな風景です。

温泉街で知人に聞きましたが、サミットの経済効果は限定的なもので商店街の閉店が増えていくそうです。

景気が悪いのも原因でしょうが、景色を見て温泉につかり、宴会して帰るパターンでは利用者は魅力を感じなくなったのではないかでしょうか。

皆さんはどう思われますか。

編集後記

会報の発送係りなら、私でも出来るのではと手をあげてから約6年すぎました。

その間、専門の印刷業者から自分たちの手作りでと、用紙も値上がりする前に買いだめを、そして郵送料もコストの安いメール便へ etc

・・・会報部員全員で工夫しています。

いざ発送日、受け取ってくださる皆様の顔を思い浮かべながら宛名シールを貼り終えたときの充実感は格別です。

(記 中島 寛子)

【事務所所在地・連絡先】

〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目
エルプラザ内 事務ブース11
健康生きがいづくりアドバイザー北海道協議会
(電話・FAX) 011-807-5889

【現在会員数】 1月31日付

○正会員	94名	○一般会員	9名
			合計 103名